

令和6年度 第3回 富山県公共事業評価委員会の概要

- 1 日 時 令和7年2月20日（木） 10:00～11:00
- 2 場 所 県庁4階大会議室
- 3 出席者 唐渡委員（会長）、堀内委員、大藤委員、星川委員、山口委員、吉川委員
- 4 審議内容

【議題1：令和6年度再評価対象事業における委員会意見の取りまとめ】

○白岩川水系白岩川について

（委員）

- ・治水対策の場合は、洪水が起きた際にどのくらいの被害があるかを便益として算定しているが、洪水の頻度は考慮しているか。
⇒便益の算出方法は、洪水が発生した場合と発生しなかった場合の差額を求めることとしている。

○委員会意見の取りまとめについて

- ・令和6年度再評価対象事業として諮問した47件に係る県の対応方針案については、いずれも適当と認められた。
（「国道415号新庄川橋」については「継続して審議」、その他の46件については「事業継続」とされた）

- ・会長から意見を付すことが提案され、了承された。

＜付帯意見＞

- ・大規模災害の発生により一時的に事業総量が増加する際に、資材やマンパワーの不足が懸念されることを踏まえ、より事業効果が期待できる事業から優先的に取り組むこと。
- ・資材単価の高騰や賃金水準の上昇が続き、相対的に事業量の縮小が懸念される中で、既着手箇所について予算を重点配分するなど、早期に効果が発現されるよう努めること。

【議題2：次年度新規要望箇所等の事前説明】

○主要地方道 高岡環状線（高岡市佐野～石塚地内）について

（委員）

- ・今回の整備により、どのような効果を見込んでいるのか。
⇒当該区間は主要渋滞箇所であるが、現在工事を進めている前後の区間の高架化完成により、更に交通量が増えることが想定されるため、ボトルネックとなる佐野交差点の渋滞緩和効果を狙っている。

(委員)

- ・交通シミュレーションは実施しているのか。

⇒現時点、前後区間の高架化完成時点、4期事業完成時点でそれぞれ実施している。

シミュレーションでは、前後区間の高架化が完成しても佐野交差点の渋滞は解消しないため、4期事業の実施により緩和を図る必要がある。

(委員)

- ・現在の工事区間である二塚交差点は渋滞が発生しており、側道を降りた際に信号が多く設置されていることも原因と考えられるが、今後この渋滞は緩和されていくのか。

⇒早期の事業効果発現のため、3期事業区間のうち南郷大橋から城端線を跨いだ二塚高架橋までの区間を3月に部分供用する予定である。これにより、側道利用は主に右左折する車両のみとなることから、渋滞緩和が図られると期待している。

○砂防関係施設整備事業について

(委員)

- ・土砂洪水氾濫が発生し、水田に土砂が流入すると、撤去など復旧には大変な手間がかかることが想定されるが、農作物被害の軽減効果の便益算定に当たり、農地の復旧に要する費用の発生が免れることは考慮されるのか。

⇒便益の算定ルール上、農作物被害を軽減する効果のみを便益として計上している。

委員ご指摘のとおり、土砂洪水氾濫により農地の復旧が長期間にわたることが想定されるが、復旧費用が軽減される効果は便益として計上していない。

(委員)

- ・片貝川、早月川の両河川について、上流から下流にかけての河床の変化はどうか。

⇒いずれも上流域は河床が上がっており、下流域は洗掘が進んでいる状況である。

(委員)

- ・これまで堰堤やダムを整備などの洪水対策を進めてきたため、大きな玉石などは上流に堆積し、細かい土砂のみが下流に流れた結果と考えられる。対策をしなければ今後も上流の河床は上昇し、海岸侵食は進むことになるため、上流域の土砂の排除が必要である。県河川においても総合的な土砂管理を考え、その上で必要な施設整備を進める必要があると考えるが、流域全体の土砂管理の検討状況はどうか。

⇒現時点では、土砂管理は上流域、中流域といった事業単位で検討しているが、それらを総合的に組み合わせて考えることは、ご指摘のとおり大事なことである。

(以上)